

2017.1.18

英国姉妹校締結報告



締結式直後の模様
ローランド・マーチン校長先生と共に

○訪問日程：2016年12月4日(日)～12月10日(土)

12月4日(日) 仙台空港7:00→成田空港→ロンドンヒースロー国際空港→ホテル

12月5日(月) ロンドン市内研修

12月6日(火) 姉妹校締結式

13:00(現地時間) 姉妹校関係締結式

12月7日(水) 学校行事見学

12月8日(木) 公式晚餐会

12月9日(金), 12月10日(土) 帰国

I 今回の渡英目的



- 1 姉妹校締結
- 2 英国旅行の安全・安心の確認
- 3 相手校視察及び学校関係者との面会
- 4 英国の研修地(特にロンドン)の視察

校長室にて

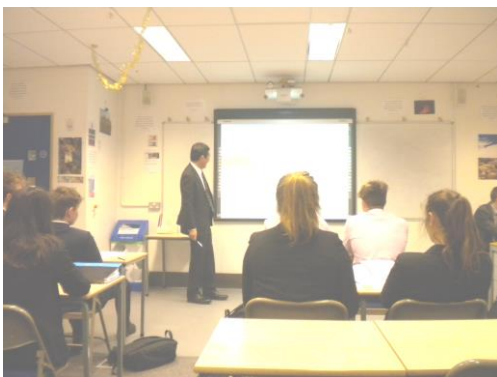
Ⅱ シティ・オブ・ロンドン・フリーメンズスクールについて

英国ロンドン郊外サリー州にあるボーディング・インデペンデントスクールです。シティ・オブ・ロンドン・フリーメンズスクール (City of London Freeman's School) は創立1854年でシティ・オブ・ロンドン地区の孤児のために宗教的・慈善目的で開校されました。現在はシティから移転し校地をサリー州アシュテッドパーク内においています。学校経営は現在もロンドン自治体によって財政援助されている進学校です。一般教育修了上級 (Aレベル) の生徒も多く、オックスフォード・ケンブリッジ大学へ毎年15人程度が入学しています。学問と部活動にも大変熱心で、本校と共通する部分が多いので大変刺激になります。理数の学力レベルも高く、学力試験で全国ベスト20に入る生徒もいるとのこと。7歳～18歳までの約900名が在籍しています。

Ⅲ シティ・オブ・ロンドン・フリーメンズスクール校との姉妹校締結及び覚書概要

- 1 直接の生徒交流や教員の相互訪問等を計画する。
- 2 交流にベストな時期、人数、生徒構成などの調整。
- 3 2017年(平成29年度)は本校生徒10人程度英国に派遣する。
- 4 具体の派遣内容・体制については、今後担当者間で相談・調整していく。
- 5 生徒訪問の際に、宿舎として相手校の寄宿舎やホームステイ利用を検討中。
- 6 相手校からは2018年に生徒・教員が本校訪問予定。
- 7 オックスフォード大学やケンブリッジ大学に入学した同校卒業生と交流する機会を持つ。
- 8 今後の交流として、生徒同士のインターネット・スカイプやメールやり取り等を奨励していく。
- 9 さらに将来的な交流に関してはその都度相談しながら進める。
- 10 来年度マーチン校長先生ご夫妻にご来校いただく。

地理の授業にて



美術の授業にて



理科実験棟前にて

IV ボーディングハウス(寮)について

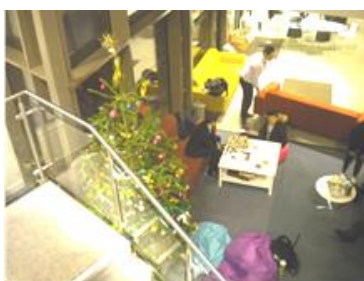
ボーディングスクールであるというのは、イギリスではある種のステータスを感じさせる学校のようなです。寮生の国籍はさまざまで、イギリスの歴史からインド、香港出身の生徒も多いです。寮は昨年度新築されていて、大変きれいで自慢の施設です。食事は宿直の職員なども一緒に全員食堂でとり、夕食後は定期的にミーティングがあります。男子、女子はきちんと分けられており、共用スペースは決まった時間だけの利用となります。



←訪問者受付



↑寮内部



団欒コーナー

IV シティ・オブ・ロンドンについて

シティ・オブ・ロンドンの「ギルドホール」という建物は過去にロンドン発祥の地の市役所として何百年も使用されてきたものです。現在でもシティ・オブ・ロンドン自治体においての儀式的及び行政的な中心となっています。そしてこれはグレートロンドン地区の行政庁舎であるロンドンの市役所とは別のものです。現在シティ・オブ・ロンドンは3つの学校、独自警察、裁判所をはじめ、多くの事業団体を運営管理しています。学校経営は創立時からギルド連合体によるロンドン自治体によって財政援助されてきたため、現在もシティ・オブ・ロンドン自治体と深い関係があります。今回はシティ・オブ・ロンドン自治体の中心であるギルドホールで自治体の長との面会、近辺の視察をしました。学校の校長はこの長が雇っている形となっています。この長がどれだけ重要な仕事であるかは、英国国王が交代する際には国内で承認の署名をする3名のうちの1人である、ということからも伺えます。シティ・オブ・ロンドン立美術館が同敷地内にあり多くの美術品が展示されています。また、その価値のある美術品のいくつかは、シ



ティ・オブ・ロンドン・フリーメンズスクールの前校長室に飾られていました。美術館の地下には12年ほど前にエレベーター工事の際に発掘された、ローマ人が支配していた時代に建てられたコロッセオが保存されており、こちらも誰でも無料で見学可能です。これらもすべてシティ・オブ・ロンドン自治体により運営されています。

なお、ロンドン中心部シティにはロンドン証券取引所やイングランド銀行、ロイズ本社等が置かれ、19世紀から今日まで続く主要な金融センターとしてニューヨークのウォール街と共に世界経済を先導しています。こちらには日系金融機関もその営業所を構えており、海外赴任の様子などを垣間見ることができます。(写真は John Barradell 氏と面会時の模様)

(まとめ)

大変和やかな歓迎ムードの中、重要なことが粛々と執り行われた印象でした。チャドウィック評議員長(Finance Committee Chairman)、John Barradell ロンドン自治体長(Town Clerk and Chief executive)など最重要人物と面会でき、両氏から今回の締結に関して非常に篤い理解を得られていたことは、コーディネーターのハラさんとスージーさんの事前の準備がいかに周到であったかのみならず、お二人がいかに人望に恵まれた人物かを象徴していると感じました。このお二人の現地でのご尽力なしでは成し遂げることは困難であったと痛感しました。心より感謝申し上げます。

学校では、先生方も生徒たちもはるか東からはるばる来校して姉妹校締結をしたことを即日フェイスブックなどで共有し、直後から出会うと笑顔挨拶を交わして歓迎してくれました。生徒・先生ともに日本に興味があり、授業で習い知っていることを確かめようと、質問なども活発でした。

これからもう少しこちら側も交流に向けた下準備としてイギリス史などを学んでおけば、ますます活発な生徒同士のやり取りが出来ると感じました。今後は、イギリスの歴史、ロンドンの歴史などを姉妹校交流の一環として抑えておく必要があると思います。

治安に関しては、イギリスは島国なのでのんびりとした穏やかさがあり、日本の雰囲気と似ているところがあります。アシュテッドのスクール近辺、ロンドン市街も非常に安全であり外出も危なくないそうです。近隣には、チェルシーFCの練習場があるので選手が住んでいる高級住宅もあります。ロンドンまでの公共交通機関も乗りやすく、駅まで出てしまえば目的地までそう時間がかからず移動できます。

大英博物館、国会議事堂近辺、バッキンガム宮殿をはじめとして、シティ周辺なども安全であり、徒歩での散策も可能です。気候は温和であり、訪問時は毎日が15℃程で少し厚着をしていると汗ばむほどでした。BBCニュースでは、「記録的な暖かさ」と報じていました。

現地の方の人柄は非常に穏やかで、外国人には慣れているので、英語で話すとこちらを理解しようと努めてくれます。とにかく自分たちの気持ちを伝えようとするのが肝要です。生徒同士もきっとそのような体験ができることでしょうか。今回の締結はほんの第一歩です。今後具体的に両校の生徒が交流し理解を深めることで、どちらの学校も更なる発展を遂げ、グローバルに活躍し世界に貢献する人材を育てていくことを目指し、この締結が実り多きものになるように確認しあうことが出来ました。



Big Ben

